第四講『古今著聞集』

次の文章は、「院」の側の秦久清と「大将」の側の下毛野敦文による競馬（くらべうま）の説話です。よく読んで、後の問いに答えなさい。ただし、設問の都合で省略した個所があります。

建仁三年十二月二十日、北野宮寺に御幸ありて、競馬十番ありけるに、五番めに、左、院の右の番長（ばんぢやう）秦久清、右に大将、下毛野敦文、番（つが）はせられにけり。久清は上手なり。敦文は不堪（ふかん）の者なりければ、久清合手（あひて）を嫌ひて辞し申しけれども、かなはざりければ、心地あしく覚えながら、番ふべきになりたりけるに、さても〔ア〕なかなか不堪の仁に負けなば、なほ本意なかるべしと思ひけり。

かくて久清、北野の宿所にて出で立つほどに、僧一人来りて「申すべきことあり」と言ひけれども、競馬の乗尻（のりじり）は、その日はことに物忌みをして法師などには会はぬことにて、下人ども聞き入れざりけり。この僧〔イ〕あながちに言ひければ、久清に告げてけり。久清、①様（やう）こそあるらめと思ひて、出であひて尋ねければ、僧が言ふやう、「過ぎぬる夜の夢に、この馬場にて、賀茂の神人（じにん）とおぼしくて、馬場末に横さまに縄を引きて、勝負の鉾（ほこ）などをさばくりつるを、②夢の心地に怪

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

しみ尋ぬれば、『院の右の先生（せんじやう）の勝負の料なり』と言ふと思ひて覚めぬ。賀茂の大明神の御計らひにて、勝たせ給ふべし」と告げければ、久清、幼くより賀茂につかうまつるものなれば、嬉しく頼もしく覚えて、「勝ちて後、悦（よろこ）びは申すべし」と言ひて返してけり。

その期になりて、久清・敦文打ちつがひて、敦文前に立ちたりけるが、少し ウしどけなく見えけるを、久清かたきをあなづりて遠ながら追ひてけり。敦文が馬よく出で合ひて早く勝ちにけるほどに、鞭さして勝負の鉾のもとにて安堵して見返りたりけるに、久清追ひ着きて、敦文が頸（くび）かみに手をかけたりければ、敦文落ちて久清勝ちにけり。A勝ちながらあまりに不思議にて、久清丈尺にて打ちて見ければ、鉾、例よりも一丈あまり遠く立ちたりけり。かの僧が夢も思ひあはせられて、大明神の御計らひ、かたじけなく覚えけり。B例の寸法にて立ちたらましかば、早く負けなまし。不思議なりけることなり。この僧には、悦び言ひたりけるとかや。敦文ほどの不堪のものに、これほどの勝負し出だしたりとて、C勝ちながら御気色悪しかりけるとなむ。まして負けなましかば、定めてよかるまじきに、神明の御計らひ、かたじけなかりけり。

（『古今著聞集』より）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（注）

競馬…左右二方より一騎ずつ組み合わせて競走させる行事。一方を先に走らせ、他方が追う形をとる。決められた区間内では、相手の馬や騎手（乗尻）への妨害が認められており、落馬させるか先着すれば勝ちとなる。なお、馬は競技用ではないので乗りこなしに技術を要した。

不堪…技術がつたない。

右の番長…御所を警護する武人の役職名。

勝負の鉾などをさばくりつる…終点の目印などを手際よく用意している。

右の先生…御所を警護する武人の役職名。ここでは秦久清のこと。

悦び…お礼。

頸かみ…狩衣などで、首のまわりを囲むようにした襟（えり）。

丈尺…長さ一丈（約三メートル）のものさし。

問一　傍線部ア～ウの意味を記しなさい。

ア＝

イ＝

ウ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　波線部①②の現代語訳を記しなさい。

①＝

②＝

問三　傍線部Ａについて、どのような点が「不思議」なのですか、具体的に記しなさい。

問四　傍線部Ｂについて、次の問いに答えなさい。

ａ　「ましか」の文法的な説明を記しなさい。活用のある場合は、品詞、終止形、問題文中での活用形名、意味の順に記しなさい。

ｂ　傍線部全体の現代語訳を記しなさい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　傍線部Ｃについて、次の問いに答えなさい。

ａ　主語を明記して、現代語訳しなさい。

ｂ　「勝ちながら御気色悪しかりける」となったのはなぜですか。簡潔に説明しなさい。

問六　問題文の出典である『古今著聞集』と同じ鎌倉時代成立の作品を、次の中から二つ選びなさい。

ア　古今和歌集　　イ　新古今和歌集　　ウ　拾遺和歌集
エ　今昔物語集　　オ　源氏物語　　カ　風姿花伝
キ　太平記　　ク　方丈記　　ケ　枕草子
コ　土佐日記

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　復習問題

①「なかなか」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いつまでたっても　　イ　かえって

ウ　すばらしく　　エ　少しずつ

②「あながちに」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　いつの間にか　　イ　思いがけず　　ウ　かろうじて

エ　無理をして　　オ　もっともらしく

③「しどけなくて」の意味として、最適なものを次の中から選べ。

ア　いいかげんでしまりがなくて　　イ　堅苦しく近寄りがたくて

ウ　あどけなくかわいらしくて　　エ　やわらかく親しみやすくて

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「思ふ心侍らずは、まかり逃げ侍りなまし。」の傍線部の助動詞の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　適当　　イ　伝聞　　ウ　完了
エ　反実仮想　　オ　推定　　カ　打消

⑤次の作品のうちで鎌倉時代に成立した作品はどれか。最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　『新古今和歌集』　　イ　『古今和歌集』　　ウ　『草枕』
エ　『万葉集』　　オ　『心中天網島』

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　模範解答

問一　ア　かえって　イ　強引に　ウ　だらしなく

問二　①　わけがあるのだろう
②　夢心地に不審に思って（私が賀茂の神人に）尋ねたところ

問三　敦文の勝ちでまさに勝負が決まる目前で、久清が追いついて敦文の襟に手をかけることができ、敦文が落馬したことによって久清が勝った点。

問四　a　助動詞、まし、未然形、反実仮想
b　終点の目印の鉾が、通常の位置に立っていたならば、久清はきっととっくに負けていたであろう

問五　a　久清が競馬に勝ちはしたが、院はご機嫌が悪かったということだ
b　久清が敦文のような技術のつたない者に、こんなきわどい勝ち方をしたから。

問六　イ、ク

〈現代語訳〉

建仁三年十二月二十日、北野神社の神宮寺に院がお出かけになって、競馬が十番行われたが、五番目に、左方は、院側の右の番長秦久清、右方は大将側の、下毛野敦文が、組み合わされることになった。久清は上手（な乗り手）である。敦文は技術がつたない者だったので、久清は勝負することを嫌って辞退申し上げたけれども、聞き入れてもらえなかったので、嫌な気持ちのままに、組んで競争することになったが、それにしてもかえって技術のつたない相手に負けたならば、もっと不本意なことになるだろうと（久清は）思った。

こうして久清が、北野神社の宿泊所から出立するときに、僧が一人来て「申し上げたいことがある」と言ったけれども、競馬の騎手は、その日は特に物忌みをして法師などには会わないことになっていたので、従者たちも聞き入れなかった。（ところが）この僧が強引に（会いたいと）言ったので、久清に告げた。久清は、わけがあるのだろうと思って、面会して尋ねたところ、僧

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

が言うには、「去る夜の夢に、この北野の馬場で、賀茂の神人と思われるものが、馬場のはずれに横に縄を引き張って、終点の目印などを手際よく用意しているので、夢心地に不審に思って（私が賀茂の神人に）尋ねたところ、『院側の右の先生（＝久清）の勝負のためである』と言うと思って目が覚めた。賀茂大明神の御処遇で、（あなたが）勝ちなさるでしょう」と告げたので、久清は、幼いときから賀茂神社にお仕えするものなので、嬉しくも頼もしく感じて、「勝った後、お礼に参上しよう」と言って返した。

　勝負のときになって、久清と敦文が一組になって馬を走らせて、敦文が先に立って（走って）いたが、少しだらしなく見えたので、久清は相手を見くびって遠く離れたままで追いかけた。（ところが）敦文の馬が力走してもうすでに勝ちが決まったという時分に、（馬に）鞭を（あてるのを）止めて終点の目印のもとで安心して（敦文が）後ろを振り返ったときに、久清が追いついて、敦文の首のまわりの襟に手をかけて引いたので、敦文は落馬して久清が勝ってしまった。勝ったもののあまりに不思議に思って、久清が一丈の長さのものさしをあてて見たところ、終点の目印は、通常の位置よりも一丈ほど遠くに立っていた。あの僧の夢も思い合わせられて、賀茂の大明神の御処遇が、ありがたく感じられた。（終点の目印の鉾が）通常の位置に立っていたならば、（久清は）きっととっくに負けていたであろう。不思議なことであった。この僧には、（久清が）お礼を言ったとかいうことである。敦文程度の技術のつたない者に、こんなきわどい勝ち方をしたというので、（久清が競馬に）勝ちはしたが（院は）ご機嫌が悪かったということだ。まして（久清が）負けていたならば、きっとたいへんなことであろうから、大明神の御処遇は、ありがたいことであった。

〔重要単語〕

○なかなか【中中】…①**かえって**。　②（下に打消）とうてい（〜ない）。
○あながちなり【強ちなり】…①**無理矢理なさま**。　②異常だ。　③**一途だ**。
○やう【様】…①様式。　②様子。　③わけ。　④方法。　⑤〜ことには。
○しどけなし…①**だらしがない**。　②ゆったりしている。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第四講　解答解説

〔**解説**〕

①「なかなか」は、重要単語で「かえって」の意味。よって、正解はイ。

②「あながちなり」は、重要単語で「無理矢理だ・一途だ」の意味。よって、正解はエ。

③「しどけなし」は、重要単語で「だらしがない」の意味。よって、正解はア。

④「**ましか**ば〜**まし**」・「**ませ**ば〜**まし**」・「せば〜**まし**」・「未然形＋ば（＝仮定）〜**まし**」の「**まし**」は**反実仮想**。「**ずは**」は「〜ないならば」と訳す**仮定**条件。よって、正解はエ。

⑤『新古今和歌集』は鎌倉時代に成立。よって、正解はア。

〔**解答**〕

①イ　②エ　③ア　④エ　⑤ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。